

# 家計調査報告（貯蓄・負債編）

- 2020年（令和2年）平均結果 -  
（二人以上の世帯）

**1 1世帯当たり貯蓄現在高は1791万円で、前年に比べ2.1%増加し、2年連続の増加。貯蓄保有世帯の中央値は1061万円。  
負債現在高は572万円で、前年に比べ0.4%の増加。負債保有世帯の中央値は1225万円**

二人以上の世帯における2020年平均の1世帯当たり貯蓄現在高（平均値）は1791万円で、前年に比べ36万円、2.1%の増加となり、2年連続の増加となっている。このうち勤労者世帯では1378万円で、前年に比べ2万円、0.1%の増加となっている。また、二人以上の世帯の貯蓄保有世帯の中央値は1061万円となっている。

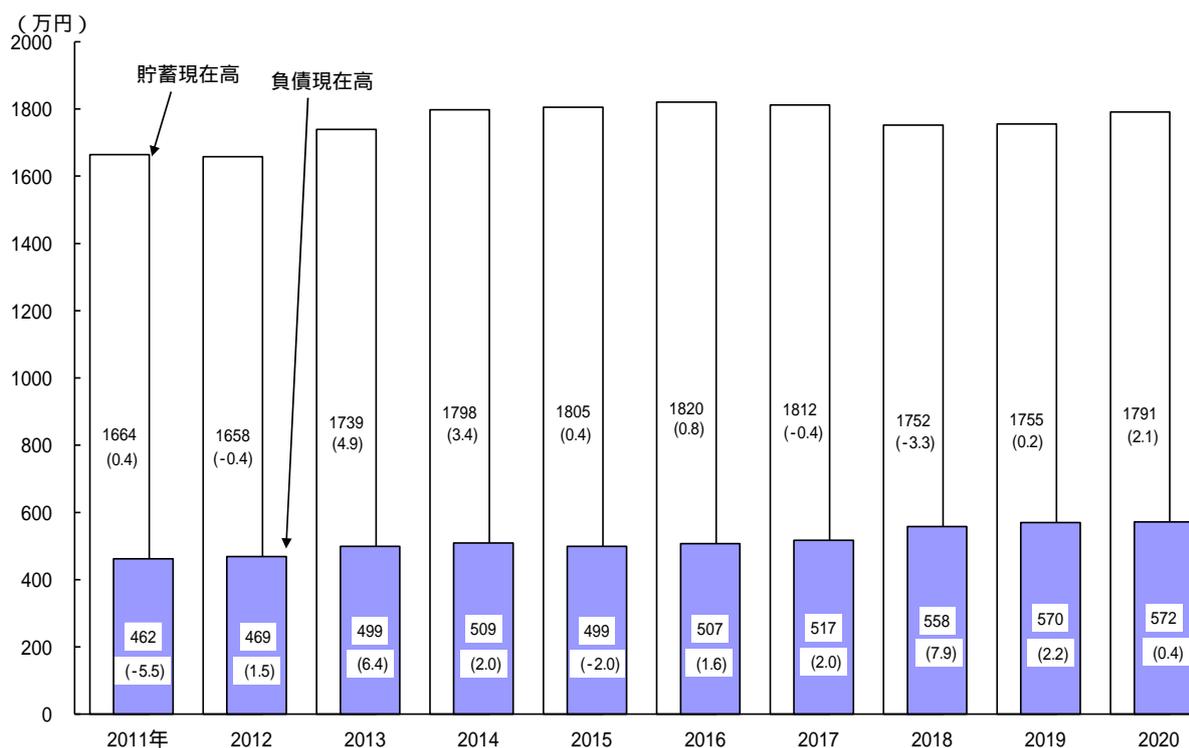
（「本文」4，5ページ）

二人以上の世帯における2020年平均の1世帯当たり負債現在高（平均値）は572万円で、前年に比べ2万円、0.4%の増加となっている。このうち勤労者世帯では851万円で、前年に比べ4万円、0.5%の減少となっている。また、二人以上の世帯の負債保有世帯の中央値は1225万円となっている。

（「本文」9，10，11ページ）

図1 貯蓄・負債現在高の推移

（二人以上の世帯）



注) ( ) 内は、対前年増減率 (%)

**2 約3分の2の世帯が貯蓄現在高の平均値（1791万円）を下回る。  
貯蓄現在高の内訳は、通貨性預貯金が12年連続の増加、定期性預貯金が6年連続の減少**

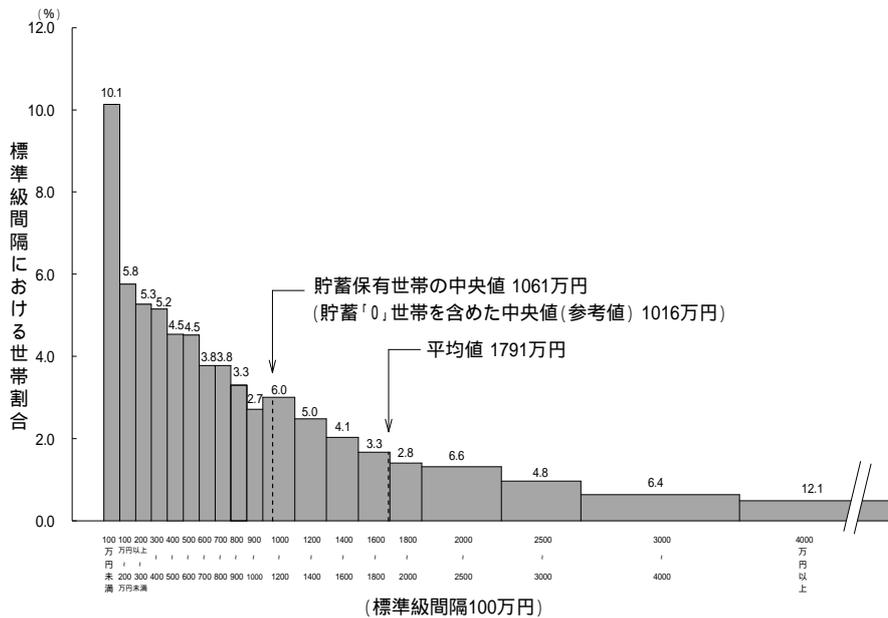
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、貯蓄現在高の平均値（1791万円）を下回る世帯が約3分の2（67.2%）を占め、貯蓄現在高の低い階級に偏った分布となっている。

（「本文」6ページ）

貯蓄の種類別に貯蓄現在高の推移をみると、通貨性預貯金が増加となっている。通貨性預貯金は556万円で、前年に比べ62万円、12.6%の増加となり、12年連続の増加となっている。一方、定期性預貯金は607万円で、前年に比べ37万円、5.7%の減少となり、6年連続の減少となっている。

（「本文」7ページ）

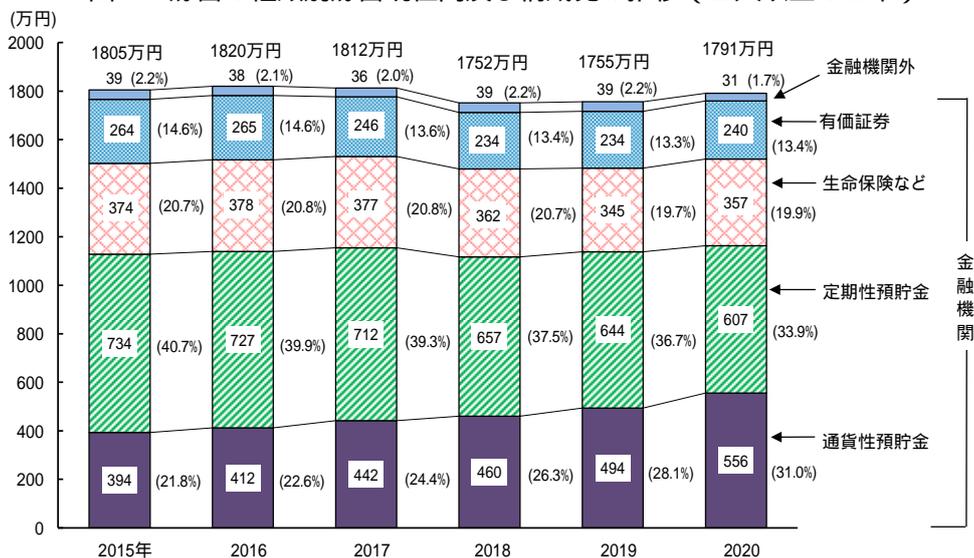
図2 貯蓄現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2020年 -



注1) 貯蓄保有世帯の中央値とは、貯蓄現在高が「0」の世帯を除いた世帯を貯蓄現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の貯蓄現在高をいう。

注2) 標準級間隔100万円（貯蓄現在高1000万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、貯蓄現在高1000万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いいため、縦軸目盛りとは一致しない。

図3 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



注3) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

注4) 「通貨性預貯金」、「定期性預貯金」などの内容については、本文34ページ「用語の解説」参照

### 3 負債保有世帯の割合は約4割。 住宅・土地のための負債が負債現在高の約9割を占める

二人以上の世帯に占める負債保有世帯の割合は約4割（38.5%）となっている。

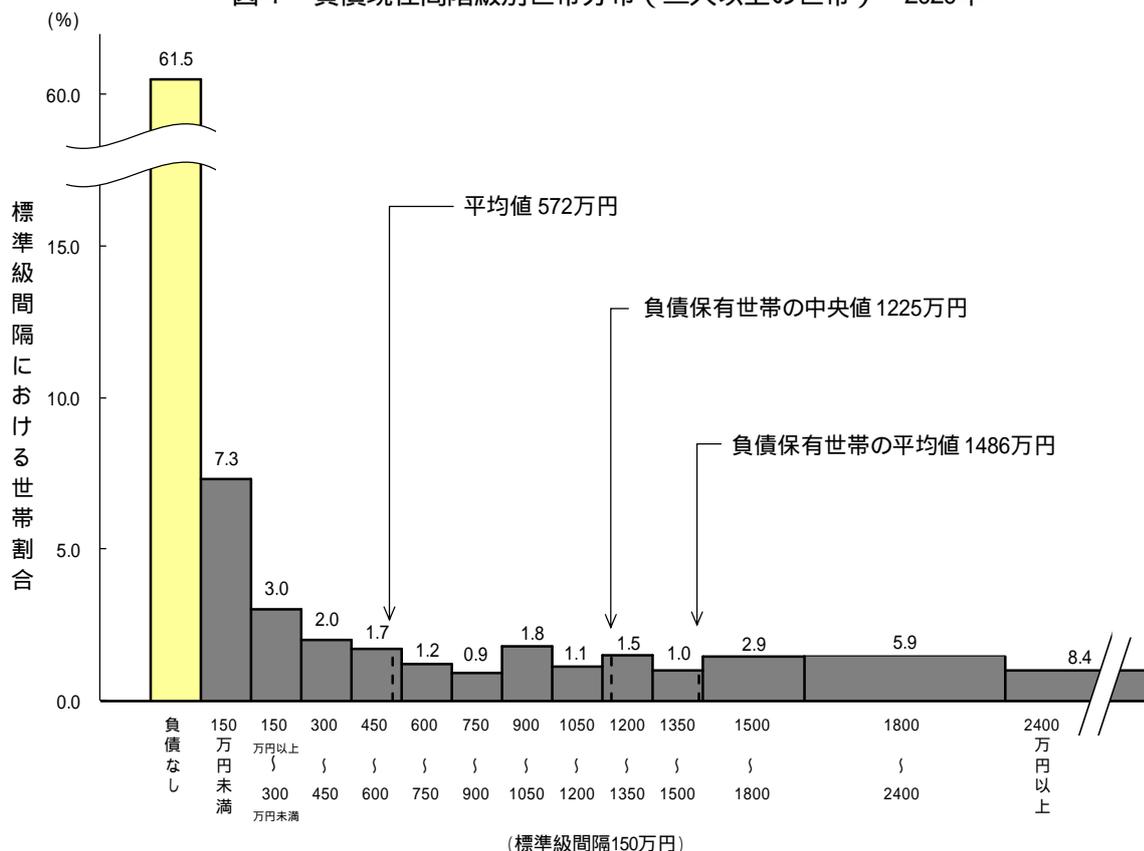
負債保有世帯では、負債現在高の平均値（1486万円）を下回る世帯が約6割（55.1%）を占めている。

（「本文」9, 10, 11ページ）

負債の種類別に負債現在高をみると、負債現在高の約9割（90.6%）を占める住宅・土地のための負債は518万円で、前年と同水準になっている。

（「本文」12ページ）

図4 負債現在高階級別世帯分布（二人以上の世帯） - 2020年 -



注1) 負債保有世帯の中央値とは、負債現在高が「0」の世帯を除いた世帯を負債現在高の低い方から順番に並べたときに、ちょうど中央に位置する世帯の負債現在高をいう。

注2) 標準級間隔150万円（負債現在高1500万円未満）の各階級の度数は縦軸目盛りと一致するが、負債現在高1500万円以上の各階級の度数は階級の間隔が標準級間隔よりも広いので、縦軸目盛りとは一致しない。

表 負債の種類別負債現在高

項目	二人以上の世帯				
	2019年	2020年			
	金額 (万円)	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)	負債保有 世帯割合 (%)
負債現在高	570	572	100.0	0.4	38.5
住宅・土地のための負債	518	518	90.6	0.0	28.6
住宅・土地以外の負債	36	36	6.3	0.0	7.4
月賦・年賦	16	18	3.1	12.5	13.8

**4 世帯主が50歳以上の各年齢階級では貯蓄超過で、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2173万円と最も多い。一方、50歳未満の世帯では負債超過**

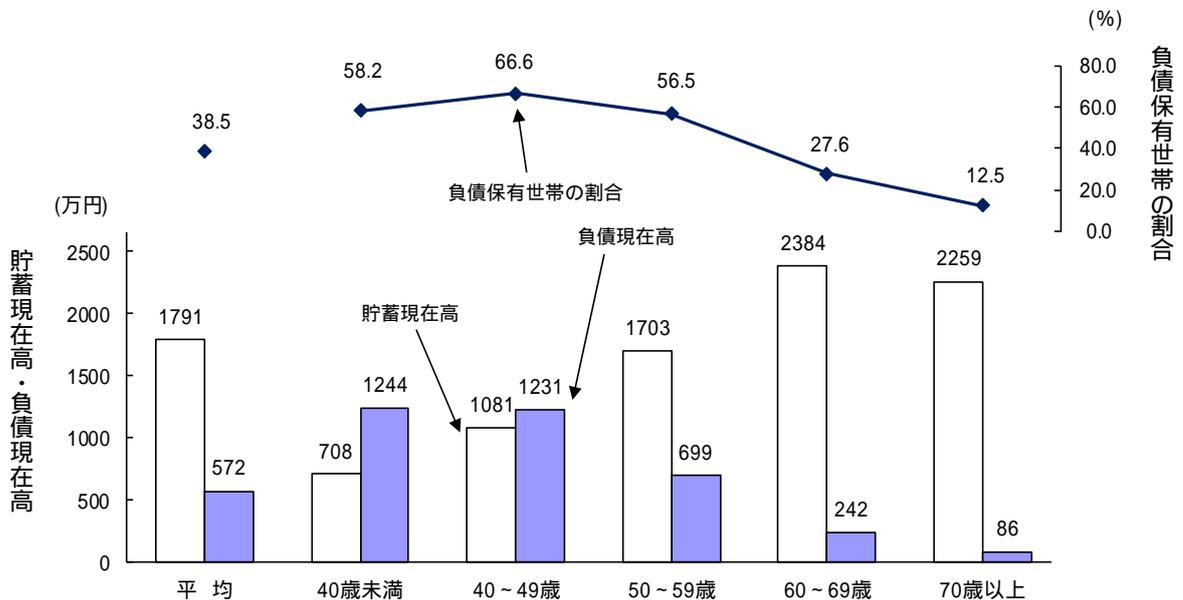
二人以上の世帯について、世帯主の年齢階級別に純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、50歳以上の各年齢階級では貯蓄現在高が負債現在高を上回っており、70歳以上の世帯の純貯蓄額は2173万円と最も多くなっている。一方、50歳未満の世帯では負債現在高が貯蓄現在高を上回っており、負債超過となっている。

（「本文」13, 14ページ）

負債保有世帯の割合は、40～49歳の世帯が66.6%と最も高く、40歳以上の世帯では年齢階級が高くなるに従って割合が低くなっている。

（「本文」13, 14ページ）

図5 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高、負債保有世帯の割合（二人以上の世帯） - 2020年 -



**5 世帯主が65歳以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は2324万円。  
世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄現在高は2292万円で、前年に比べ3.3%の増加。  
貯蓄現在高の内訳は、通貨性預貯金が618万円で、前年に比べ13.8%の増加**

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は2324万円で、貯蓄現在高が2500万円以上の世帯が32.5%を占めている。

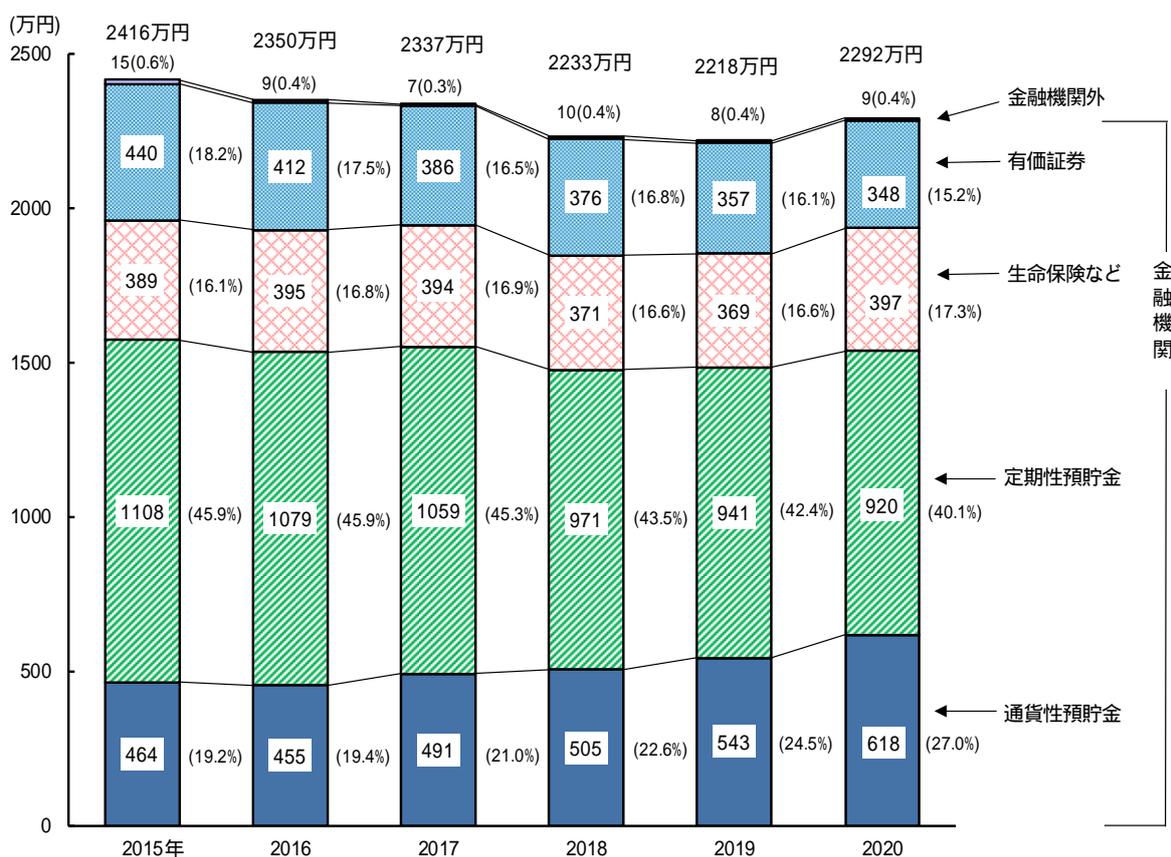
(「本文」25ページ)

二人以上の世帯のうち世帯主が65歳以上の無職世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は2292万円で、前年に比べ74万円、3.3%の増加となっている。

貯蓄の種類別にみると、通貨性預貯金は618万円で、前年に比べ75万円、13.8%の増加、「生命保険など」は397万円で、前年に比べ28万円、7.6%の増加などとなっている。

(「本文」26、27ページ)

図6 世帯主が65歳以上の無職世帯の貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移(二人以上の世帯)



注1) ( )内は、貯蓄現在高に占める割合

注2) 「通貨性預貯金」、「定期性預貯金」などの内容については、本文34ページ「用語の解説」参照

## 家計調査 貯蓄・負債編の公表時期について

家計調査結果 貯蓄・負債編の公表時期は、原則として以下のとおりです。

### 四半期平均結果（二人以上の世帯について。結果表のみ）

四半期ごとの調査最終月の4か月後（10～12月期平均結果を除く。）

今回は、2021年1～3月期平均結果を2021年7月30日に公表する予定です。

### 年平均結果（二人以上の世帯について）

調査年の翌年5月

今回は、2021年平均結果を2022年5月中旬に公表する予定です。

## 問合せ先



総務省統計局統計調査部  
消費統計課審査発表係

電話 03(5273)1174  
FAX 03(5273)1495

- ・家計調査（貯蓄・負債編）ホームページ  
<https://www.stat.go.jp/data/sav/1.html>

この資料及び「本文」のPDFファイルは、次のURLからダウンロードできます。

<https://www.stat.go.jp/data/sav/sokuhou/nen/index.html>

- ・政府統計の総合窓口（e-Stat）  
<https://www.e-stat.go.jp/>

家計調査の  
最新情報はこちら！

・結果の概要は、統計メールニュースでも配信しています。  
メールニュースのお申込みは、統計局ホームページから。  
<https://www.stat.go.jp/>

Family Income and Expenditure Survey (Savings and Liabilities)  
(in English)  
<https://www.stat.go.jp/english/data/sav/index.html>

Portal Site of Official Statistics of Japan (in English)  
<https://www.e-stat.go.jp/en/>

統計データを引用・転載する場合には、出典（府省名、統計調査名）の表記をお願いします。